

**学校法人大手前学園
大手前短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

大手前短期大学の概要

設置者	学校法人 大手前学園
理事長名	福井 有
学長名	福井 有
A L O	福井 要
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2-2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ライフデザイン総合学科		250
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大手前短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

大手前学園は健全な財務状況のもとに、大学・短期大学・専門学校を運営し、学生の教育に努めている。理事長・学長のアメリカの学校経営や運営についての深い学識が随所にいかされ、我が国の私学が直面しているさまざまな課題に果敢に対応して、先駆的な学園経営がなされている。

昭和 21 年、学園は大手前文化学院を開学するにあたって「情操豊かな女子教育」という建学の精神を掲げ、タイプライター・英語・洋裁・栄養学などの実務教育を開始した。その後、成熟社会が到来して生涯学習時代に転換したことを受けて、学園は「STUDY FOR LIFE—生涯にわたる、人生のための学び—」を教育理念とした。そして、「自己実現が出来る人材の育成」という教育哲学を根底に置き、教育方針を「少人数教育のケーススタディー」、運営方針を「学生一人一人の個性を伸ばす」と定めて教育を遂行してきている。

平成 16 年、短期大学は既設の「生活文化学科」の 4 コースを「ライフデザイン総合学科」に改組した。「自らの人生設計（ライフデザイン）を考え、創り、なりたい自分になる学科」をコンセプトとして、ユニット自由選択制・男女共学・社会人導入を柱にした地域総合科学科の新たな歩みの開始である。同年、「大手前シティカレッジ」も開設され、地域社会のニーズに応える講座（60 から 80）を開講して、新たな社会貢献を開始するに至っている。

ライフデザイン総合学科の教育目標は「自己実現・資格学習支援・キャリア支援」とされ、その目標を達成するためのオリエンテーションは入学前から行われ、在学中は 10 の「系」に分かれるユニット自由選択によって、資格取得とキャリアデザインを達成する教育課程が組まれて学生のニーズに答えている。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動においては、ユニット別の満足度調査や携帯電話による授業評価アンケート（C-POS）などが組織的に行われ、授業点検・授業改善に積極的に努めて成果をあげている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 昭和59年のカレッジ・アイデンティティ(CI)導入は全国に先駆けて行われたもので、建学の精神を周知させるうえで大きな働きをしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 光ファイバーによる情報通信ネットワークは、高速通信が可能で、コンピュータスキルに関わる教育環境が充実している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 様々な授業評価や満足度を実施している中で、携帯電話による授業評価アンケート(C-POS)を、授業開始後早い時期に実施し、その後の授業改善にいかしている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学前の「計算」・「読み書き」のリメディアル教育および入学後のきめ細かなオリエンテーションの実施によって、円滑な大学生活への導入を試みている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 大手前大学との協同活動である「VIO・ボランティア・イン大手前」が伊丹市社会福祉協議会ボランティア・センターに加入し、障害者スポーツ大会の支援などに積極的に活動している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスが年度当初に配布されているが、その記載は項目の列挙といってもいいような体裁になっている。より具体的な内容の記載が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 短期大学と四年制大学が同一キャンパス・同一校舎で学習する体制に移行しつつあるが、自主性がいかされるよう期待する。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

昭和 21 年、「情操豊かな女子教育」を建学の精神に掲げて大手前文化学院を開学して以来、短期大学はその精神を継承して今日に至っている。「STUDY FOR LIFE—生涯にわたる、人生のための学び—」という教育理念は、成熟社会の到来した今日の高等教育の理念としてふさわしく、「自らの人生設計（ライフデザイン）を考え、創り、なりたい自分になる学科」という、ライフデザイン総合学科のコンセプトにいかされている。大手前シティカレッジの運営にもその精神はいかされ、社会貢献がされている。

また、昭和 59 年の CI 導入によって、教育理念はシンボルマークに明示されて内外にひろく伝えられるとともに、理事長・学長を中心にした教務委員会で検証・点検されてきている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

地域総合科学科として改組された当該短期大学のライフデザイン総合学科は多彩な科目を開設し、その教育課程は 10 の「系」と 32 の「ユニット」で体系的に編成されている。学生は志望する職種からの「逆引きの履修モデル」を参照しながら、自分のニーズに合わせて「ユニット」を選択して履修することができる。現在、取得可能な資格は 24 に及び、職種からの「逆引きの履修モデル」が示され、また「曜日ユニット」を採用して授業の連携を図り、学生の意欲を高めている。

教養科目の履修については、「資格取得と結び付く専門科目の履修においても教養教育は成り立つ」という認識に基づいて行われている。短期大学は大学として「教養を培う」という使命を担っているので、現代の若者に必要な教養については十分に研究されたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員の採用は「教員選考規程」に基づいて行われ、研究業績のほかに模擬授業を参観してその授業力も参考に採用している。

校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を充足し、講義室・演習室・実験実習室・体育館も十分に整備されている。

キャンパスには光ファイバーによる情報通信ネットワークが敷設され、450 台のパソコンが配備されていて教育環境は整っている。

図書館は大手前大学との共用で、蔵書数・学術雑誌数・AV 資料数・座席数は在籍学生数に比して適当である。図書購入予算も充分で、西宮キャンパスの図書館はもちろんのこと、阪神地区の大学図書館とも相互利用のできる対応がなされている。当今、若者の活字離れによって学生の図書館利用が減少傾向にあるが、課題図書の指定などをおしての利用促進が図られ、利用者数は一応安定している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生の満足度をつねに調査し、その結果を授業改善にいかして教育目標を達成するよう組織的な努力がなされている。特に次の 5 つの取組みは、高く評価される。①携帯電話による授業評価アンケート (C-POS) による即時の授業評価、②全科目の授業アンケートの実施と公表、③ユニット別満足度調査の実施と公表、④少人数クラスとしてのフォーラムおよびゼミナールの担任制、⑤成績評価 (五段階評価と合否による評価)。

以上のような授業改善の取組みもあって、就職率が年々向上していることは高く評価できる。平成 18 年に「学生支援検討プロジェクトチーム」が立ち上げられたので、就職未決定者や退学者の原因分析と対策の策定に努めることによって、全学生の満足度をさらに高めることが期待される。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学前には 3 回にわたる入学前オリエンテーションと計算・読み書きのリメディアル教育が実施され、入学後には 5 日間にわたって、オリエンテーションやフォーラムごとのガイダンスが 2 年次生のスチューデント・アシスタント (SA) の協力も得て行われている。学生生活全般の支援については、大手前大学教員と合同で設置される「学生委員会」が所轄し、クラス担任制も設けられて学生の相談に対応している。

学生の心身の健康の相談は健康相談室とカウンセラー室で、経済面の支援は大手前学園奨学金と大手前学園奨励金制度で、また就職支援は「キャリア・プランニング」などの授業と連携してキャリアサポート室で適切に行われ、編入学や留学に対する体制も整えられて、学生のニーズに答えている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究に係る経費は、個人研究図書費、学会費、学会出張費、学科別研究費などその内訳制限を設けずに、十分な補助が行われている。教員の個人研究室には、研究用パソコンなどの機器・備品が備えられている。

研究成果を発表する機会としては、大手前大学と合同で発行される「研究集録」があり、全国の大学、研究機関に送付され、国立情報学研究所の学術ネットワーク（SINET）にも、教員の任意により公表している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

改組されたライフデザイン総合学科は、地域社会の多様なニーズに応える学科として着実に教育の成果を上げるとともに、大手前シティカレッジ（OCCI）を平成16年度に開設し、地域社会の学びのニーズに答えている。

学生のボランティア活動も積極的に行われ、大手前大学との協同活動である「VIO・ボランティア・イン大手前」は、地域の公的機関である伊丹市社会福祉協議会ボランティア・センターに加入し、他団体と連携して障害者スポーツ大会の支援や老人ホームへの訪問演奏などを積極的に行い、社会貢献を行っている。

海外の提携先教育機関は、アメリカ・カナダに7校あり、学生は毎年語学研修などで短期留学したり、卒業後に3年次編入したりして交流を深めている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は短期大学学長を兼任し、その教育理念「STUDY FOR LIFE—生涯にわたる、人生のための学び—」を教職員と共有するために「理事長レター」を随時発信するなどして、理事長の考えを広く伝え学園の一体化を図っている。

この一例からも明らかなように、理事長・学長のリーダーシップが発揮され、理事会と教授会は適切な連携のもとに、時代のニーズや学生のニーズに応える管理・運営に努めている。なお、「教学運営評議会」が学則で定められ、理事会と教授会の間に設置され、両者の意思の円滑な疎通と合意形成に努めている。大手前大学と合同で行われる「教学運営評議会」については、両大学の学則において明確に規定して学園運営にあたることを期待したい。

評価領域Ⅸ 財務

学園は大学・短期大学・専門学校の全分野において定員を十分に確保し、教育理念「STUDY FOR LIFE—生涯にわたる、人生のための学び—」を踏まえて、学生の多様なニーズに応える教育を実施する健全な財務基盤を整えている。学園の財務情報については学園機関誌「大手前ウィンズ」にその概要を掲載するとともに、ウェブサイトでも公開して、社会的な責任を果たしている。

資産の運用については、安全性を重視しつつも、ポートフォリオ的な活用でリスク

マネジメントを行い、着実な成果を上げるべく運用している。

施設設備の管理は諸規程に基づいて行われ、コンピュータのセキュリティ対策も適切で、省エネルギーや地球環境保全対策も徹底されている。

評価領域X 改革・改善

学園は他大学に先駆けて平成 3 年に自己点検・評価委員会を設置し、年次報告書の刊行に踏み切るとともに、今日までの 15 年間、継続的に教育内容の改善努力を行ってきた。学生が携帯電話を利用して行う授業評価アンケート（C-POS）の導入は画期的で、多方面から注目されている。

また、平成 19 年度には、研究活動の活性化を図るため、個人研究費ではまかなえない研究計画に対して、「特定教育・特定研究についての制度」を新たに設けた。このように、教育・研究の両面において着実に改善・改革を進めていて、意欲的である。

今後、他大学との相互評価あるいは外部の識者による外部評価を行い、さらなる改革と改善に努めていくことが期待される。